



連載 キャリアセンター通信

「開拓者精神」を身につけるための インターンシッププログラムの 取り組み

北海学園大学 キャリア支援センター
赤坂 武道

プログラムの目的

このプログラムの目的は、本学の建学精神である「開拓者精神」にのっとり、未来を切り拓く人材を輩出し、地域や社会に貢献できる人材を育成するための基盤を構築することであり、本年度で12年目を迎えている。

年々、本学の学生や、主な就職先企業からのインターンシップへの期待が高まっている。この状況を受けて、今年度から従来の内容を一新し、参加学生と受け入れ企業双方において、さらに納得感が高まるプログラムを目指し、制度の再構築を行った。

また、前期実績は参加学生190名、受け入れ企業56社であったが、今期は学生への呼びかけを強化、さらに受け入れ企業の開拓を行った結果、参加学生340名、受け入れ企業87社と、大幅に規模を拡大させることができた。

プログラムの内容

プログラムのコンセプトとして、①自分の考えをアウトプットすること、②チームで考え、共有すること、③自分で選択して行動すること、の三つを掲げ、それぞれの講座は主にワールドカフェ形式で行い、学生同士自由に意見交換ができるようにした。また、これらを経験することで、「開拓者精神」に繋がる自主性、積極性、自立性が身につくように設計した。

さらに、事前に参加学生が大切にしている価値観と受け入れ企業の組織風土のデータを取りまとめ、マッチング度を高めることで、双方の納得感が高まるようにした。

プログラムの成果と今後の課題

プログラムに参加した学生に対し、本学が独自に作成した質問紙を使ってテストを行ったところ、参加前に比べて参加後には主体性が向上する傾向が見られた。

また、参加学生や受け入れ企業にアンケートを取ったところ、「初めは大変だったが、とても充実したプログラムだった」（学生A）、「このプログラムに参加したことで就活の意欲がとて高まった」（学生B）、「学生がしっかりと事前に教育されていると感じた」（企業担当者A）、「成果報告会に参加させてもらい、他の企業の取り組みがわかって参考になった」（企業担当者B）など、概ね前向きなコメントが寄せられた。

さらにインターンシップ終了直後の

就職ガイダンスの参加者数が例年より大幅に増え、プログラムの波及効果も認められた。

今年度からの再構築によって、プログラム内容の充実と、参加学生・受け入れ企業の拡大が実現できた。しかし規模の拡大により事務作業の煩雑さを招き、結果として部署全体に相当な負担がかかってしまったことは重大な反省点である。今後は効率性を重視したプログラムの構築が課題である。



プログラム内容

項 目	テーマ	内 容
事前ガイダンス	インターンシップガイダンス	インターンシップの目的や心構え、プログラム内容の説明など。
事前研修①	働く未来を考えてみる講座	「WORK SHEET」をテキストとして使い、未来を描きながら働き方がどう変化するかを考える。
事前研修②	働く実際から働き方を考えてみる講座	若手社会人から「働くこと」「仕事とは?」「生き方」などの話を直接聞き、働くことへの実感をもつ。
事前研修③	適職検査実施	適職検査を活用し、自分の適職や自分に合った組織風土を理解する。
事前研修④	自己分析セミナー	適職検査をさらに活用し、自分自身がもつ強み、弱みを知り、今後のキャリアを考える。
事前研修⑤	マナー講座	派遣される前に、社会人としての身だしなみ、言葉遣いなどの基本的なマナーを習得する。
事前研修⑥	直前ガイダンス	企業や大学に対しての諸手続きや準備に関する最終確認。目標設定シート・自己紹介シートを配付する。
受け入れ企業・官庁ヘインターンシップ参加		
事後研修	成果報告会の実施	参加学生、受け入れ企業が一堂に会し、インターンシップを通じて得られたことを共有し、自由に交流する。